

【発表概要】

第42回日本認知症学会学術集会

全自動免疫測定装置を用いた血漿 A β 測定における検体前処理条件の検討

発表者	山下 和人 ¹ 、石木 健吾 ¹ 、渡部 俊介 ² 、三浦 雅央 ¹ 、岩永 茂樹 ³ 、佐藤 利幸 ¹ (所属先) ¹ シスメックス株式会社 中央研究所 ² シスメックス株式会社 テクノロジーイノベーション本部 ³ シスメックス株式会社 技術戦略本部
発表概要	目的 近年、アルツハイマー病 (AD) の有用な診断ツールとして血漿アミロイド β (A β) 測定が注目されている。我々はこれまでに血漿 A β 42/40 比によってアミロイド PET 検査結果を曲線下面積 0.86 以上という高い性能で予測できることを報告している。しかし、血漿 A β 値は検体の前処理法の影響を受けることが報告されており、不適切な検体の取扱い、診断性能の低下を招く恐れがある。そこで本研究では、血漿 A β を安定に測定可能な条件を検討することを目的とした。 方法 健康人ボランティア検体を使用し、血漿分離前後の保存時間や温度、凍結条件、容器などの条件について検討した。血漿 A β 42 と A β 40 は全自動免疫測定装置 HISCL™-5000 を用いて測定し、A β 42/40 比を算出して前処理条件の影響を評価した。 結果 血漿分離前の全血を室温で 2 時間もしくは 4℃で 6 時間まで保管しても A β 42/40 比に影響はなかった。血漿分離後は室温、4℃のどちらでも 6 時間まで安定であり、-20℃以下での凍結保存が可能であった。保存容器への蛋白質低吸着加工の有無も影響しなかった。 考察 本検討の結果から、安定に血漿 A β を測定可能な条件が明らかとなった。この条件の範囲内で検体を取り扱うことにより、実臨床においてもこれまでの報告通りの優れた診断性能を発揮し、AD 診断の有用なツールとなることが期待される。
セッション	一般演題 ポスター「アルツハイマー病 (生化学、遺伝子) 1」